

総

括

質

疑

3月定例会では、予算審査常任委員会において各会派の代表が、令和2年度予算について一問一答方式による質疑を行いました。

ここでは、その質疑の一部を掲載します。

(予算審査常任委員会小委員会での審査)



福祉

白石 多津子

平成西山クラブ

問 保育所の量の拡大は、目途がついてきており、今後は子どもにふさわしい保育になっていくかを考えるべきである。保育の質の向上について、どのように考えているのか。

答 保育の質の向上は、人材確保とセツトだと考えており、確保に向けた制度を令和2年度中に具体化したい。その中で、それぞれの生活スタイルに応じた保育の場を提供できる環境づくりが重要であると考えている。



地域振興

上村 真造

平成西山クラブ

問 道の駅的施設の建設は断念となったが、サウンディング調査で業者などから聞いた意見を、なぜ令和2年度の予算に計上されていないのか。

答 サウンディング調査の中で、様々な事業所から新たな取り組みの提案をいただいている。一度原点到ち返り、課題整理を行い、多様な農家の経営形態に合わせた検討が必要であると考える。課題整理後、必要に応じて予算計上する予定である。



教育

小野 洋史

平成自由クラブ

問 本市の学校給食では、年間15トン以上の食品ロスが発生していると予想される。食品ロスを減らすため、どのような取り組みをしているのか。

答 安心して食べられるおいしい給食の提供を目標に、個々に応じた量や時間に配慮している。また、食に対する楽しみを感じるための工夫としては、投票で決めた人気献立の提供や、いくつかの種類から選べるセレクト給食などを実施している。



上下水道

八木 浩

平成自由クラブ

問 水道事業における耐震化は、市民生活にとって非常に大事である。安心、安全、安定的な事業展開に向けた水道事業の展望はどうか。

答 水道は、市民生活に直結した重要なライフラインである。現在、拠点施設である浄水場や基幹管路の耐震化に取り組んでいる。今後も災害に強い強靱な水道を築くため、基幹管路の耐震化率を令和6年度に52%にすることを目指していく。



都市整備

富田 達也

輝(かがやき)

問 はっぴいバスのルート変更については、北部であれば西向日駅に近いことや他の病院にも近いことなどの観点から、ルートを考えたほうがよいと思うが、市の考えはどうか。

答 過去に2回行った調査より、北部地域および南部地域でも、はっぴいバスの利用による向日市や大山崎町内の駅への移動需要が少なく、市域をまたぐ広域的な役割は、鉄道や路線バスが担っていると考えている。



都市整備

宮小路 康文

輝(かがやき)

問 公園緑地整備事業では、市内の公園の整備および改修を実施するところ。どのような計画をしているのか。

答 令和2年度に行う計画は、大きく三つある。一つ目は、公園施設の長寿命化計画に基づき、九つの公園の老朽化した遊具の更新。二つ目は、西代里山公園に設置予定のポルダリング施設の設計。三つ目は、西山公園の第3期整備事業の事業化に向けた基本設計などである。



福祉

大伴 雅章

輝(かがやき)

問 本市の共生型福祉施設構想・基本計画の基本施設や付帯機能について、京都府の計画でも、積極的に市へ協力いただいているのが読み取れる。是非トップ同士が協力し、事業を進めて欲しいが、市の考えはどうか。

答 共生型福祉施設の機能の部分は、市の考えを積み上げ議論してきたが、やはり府と協働し、進めていかなければならない。引き続き府への要望のなかで協力を求めていく。



防災

福島 和人

公明党

問 各避難所における防災訓練では、災害時用マンホールトイレの設置後、実際に水を使い排水するまでが本来の訓練だと考える。職員が訓練に赴き、指導してはどうか。

答 令和2年度も防災訓練を行う予定だが、人員に限りがあるため、全校区に職員を配置し、指導することは困難である。職員が事前に指導し、各校区で設置から排水までの訓練が実施できるようにしていきたい。



環境

山本 智

公明党

問 本市でも野良猫の殺処分ゼロを目指す、多頭飼育崩壊を防ぐため、ボランティアを募り、ルールの下で適切に管理する「まち猫活動」を支援事業として取り組んではどうか。

答 飼い主のいない猫を増やさないことは、地域衛生環境の向上においても、有効であると認識している。この活動は、地域の方々の理解と協力が必要であるため、先進的な自治体での活動を参考に検討を進めたい。



福祉

寺嶋 智美

平成市民クラブ

問 多胎出産は、ハイリスクな妊娠と言われており、出産前も出産後も特別な支援が必要と考えるが、本市の支援体制はどうか。

答 多胎児は、配慮が必要な妊婦として子育てコンシェルジュで管理し、保健師などが支援事業の案内や、家庭訪問、電話相談の対応を行っている。また、妊婦検診の回数は14回が基本であるが、多胎児については、令和2年度から20回まで拡充する。



都市整備

三木 常照

平成市民クラブ

問 JR長岡京駅前線整備事業では、第3工区の完成予定を半年延長し、9月までとのことであるが、残っている工事はなにか。

答 車道部については、遮熱性舗装や区画線の工事、歩道部については、現在の仮舗装から平板ブロックへの張り替えが残っている。その他、第3工区との接道部における舗装本復旧工事や、京都府へ引き継ぐための管理台帳の作成などが残っている。



都市整備

二階堂 恵子

日本共産党

問 海印寺保育園東側の市道には、水路があるため道路幅も狭く、保育園の送迎時には車が並び危険である。水路の暗渠化は、長年の住民の要望だが、実現できない要因はなにか。

答 水路は開渠が原則であるが、暗渠化する場合には、道路の利用形態などの検討や水路の能力などを雨水計画と照らし合わせ、測量設計を行う必要がある。暗渠化には、このような検討が必要なため時間を要する。



福祉

住田 初恵

日本共産党

問 障がい者福祉施設では、経営が厳しい中、非正規や非常勤などの雇用や、職員の確保のための処遇改善などの経営努力をされている。市は、その実態を認識されているか。

答 令和3年度から開始する障がい者(児)福祉基本計画の策定にあたり、事業所にはアンケートを、団体などにはヒアリングを実施している。その中から出た課題を精査し、必要な施策を次の計画で考えていきたい。



防災

小原 明大

日本共産党

問 新型コロナウイルス対策では、何を大事にして判断してきたのか。また、悩んだ点はどこか。

答 情報が非常に不足している中での判断は、非常に難しいと感じながら対策を行ってきた。少し厳しい判断をすべき場面もあったかもしれないが、市民の安心・安全を守ることが最優先であり、そのうえで、市民生活への影響を勘案しながら対策に取り組んできた。